

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	土屋 陽子
通学キャンパス			
論文題目	地方自治体の人材育成基本方針における 労働衛生に関する記載状況と労働衛生管理活動との関係		
審査結果 (枠で囲む)	(合格)		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 本研究は労働衛生管理を人材育成の視点から捉え、自治体の「人材育成基本方針」における健康に関する記載状況と労働衛生管理活動の関係性を検討することを目的としたものである。全国自治体のホームページから基本方針を洗い出し、掲載されていた 457 自治体を対象に、方針中の目次への記載及び文中における労働衛生に関する用語の記載と掲載箇所、内容を調査した。また、層化無作為抽出によって 343 の全国自治体を対象に質問紙調査を実施し、基本方針における記載と労働衛生管理活動の実施関係及び要因を明らかにした。</p> <p>主な結果として、約半数の自治体が基本方針中に「健康等」の用語を記載しており、用語の記載は「衛生管理者資格取得に対する支援制度」の整備率、「メンタルヘルスに関する健康教育・相談・保健指導」の実施率と有意に関係していた。労働衛生管理活動の実施には、基本方針の策定や人口、職員数が関連しており、小規模自治体の課題を明らかにした。</p> <p>2) 質問紙調査の実施にあたっては倫理委員会の承認を得ており、倫理的な問題はなかった。本研究は文献検討と Web 上掲載のある全ての市町村の調査に加えて質問紙調査を実施しており、適切な分析方法で結果を導いている。論文は序論、文献検討、概念枠組み、目的、方法、結果、考察、加えて、2 つの研究から導かれた総合考察、結論で構成され、文献の引用についても適切であった。</p> <p>3) 本研究の新規性は、自治体のホームページと質問紙調査から「人材育成基本方針」への「健康等」用語の記載状況と実際の労働衛生管理活動の関係性を研究した点にあり、今後の地方自治体の労働衛生管理活動の充実に向けた研究として高く評価できる。</p> <p>2. 7 月 27 日に初回審査を実施し、市町村自治体の実態や自由記載の結果を活かした考察の加筆等、追加説明と確認を求めた。8 月 16 日に再度、論文が提出され、3 審査委員で適切に追加・修正されていることを確認した。</p> <p>3. 口頭試問においては、適切に応答した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	山下 留理子	
	副 査	丸山 仁司	
	副 査	山本 康弘	